竹内 竜介
TAKEUCHI Ryosuke

■ 専門分野

経営学分野・国際経営史（主に多国籍企業の経営活動に関する歴史的分析）

■ 指導可能な研究テーマ

- ・企業の国際経営活動に関する定性的研究
- ・企業の国際競争力の創出や発展に関する定性的研究
- ・企業家活動に関する定性的研究

■ 過去に指導した学生の修士論文題目

●過去に指導した修士課程の学生数：18名

（内訳【2011年度】4名、【2013年度】2名、【2014年度】2名、【2015年度】2名、
【2016年度】2名、【2017年度】5名、【2022年度】1名）

途中、サバティカルおよび社会人専修コース担当による中断あり。

●過去の修士論文題目例

【2011年度】

「BOP ビジネス研究の方向性に関する考察 ―BOP ビジネス支援制度の役割と可能性について―」

「アジア企業のグローバル・ブランド構築における戦略に関する研究」

【2013年度】

「中国企業の国際 M&A 後における組織統合に関する研究―Lenovo による IBM の PC 部門買収の事例を中心に―」

【2014年度】

「東南アジアにおける日本企業の市場展開―華人ネットワークの活用の視点から」

【2015年度】

「コンビニの海外進出における小売ノウハウの移転と変容 ―セブン-イレブン・ジャパンの中国北京の事例を中心に―」

【2016年度】

「B2C 電子商取引企業の競争戦略の形成について ―中国の京東商城を中心に」

【2017年度】

「日系コンビニの中国進出に関する研究～二次進出に焦点をあてて～」

「外資系企業の日本における研究開発戦略について―日本ロREAL社の事例を中心に―」

「日系小売企業の国際化における現地の立地戦略 ―イトーヨーカ堂（中国）を例に―」

【2022 年度】

「衰退している地方公共バス産業における企業活動の研究：小嶋光信の企業者活動を事例として」

■ **修士論文作成のための必読文献リスト**

学生の修学状況によって異なります。

国際経営に関するテーマを取り扱う場合、次の文献の内容を理解しておくことは必要となります。

・浅川和宏（2003）『グローバル経営入門』日経 BP マーケティング（2022 年に新装版が出版されています）。

・大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

また研究方法についての知識を身につけるために、次の文献の内容を理解しておくことも必要となります。

・田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン：経営知識創造の基本技術』白桃書房。

■ **修士論文作成に向けた履修推奨科目**

- ・組織マネジメント特論
- ・国際経営特論
- ・戦略経営特論
- ・人的資源管理特論
- ・グローバル・イノベーション・マネジメント特論
- ・経営史特論
- ・定性研究法特論

■ **博士課程後期での研究指導実績**

【過去に指導した学生の博士論文題目（学位取得年月）】

該当なし（2023 年度時点において、博士課程後期院生を 1 名指導中）

■ **その他**

指導教員は主として定性的研究（歴史的分析）を専門としています。

そのため、原則として、修士論文では定性的研究に取り組んでいただきたいと思います。